8　本時の展開

＜A＞達成度　＜B＞学習速度　＜C＞取り組み方（学習の仕方）
＜D＞見方・考え方　＜E＞興味・関心　＜F＞生活経験

段階	過程	時間	学習活動	評価の視点・方法	指導上の留意点	教材・教具等
導入	課題確認	15分	1．意欲的に準備運動をする。 （ダブルダッチ・体操・サーキットトレーニング） 2．集合・整列し元気よく挨拶をする。 3．個人的技能の練習をする。 4．本時の学習課題をチームごとに確認する。 学習課題 １対１で相手をかわす方法を考え、練習し、ゲームに生かそう。		1．チームごとにダブルダッチ・体操・サーキットトレーニングをする。ダブルダッチは互いに協力し合い、サーキットトレーニングは各自の回数で行う。 2．欠席者・見学者の確認をする。 3．チームごとに ・ドリブルリレー　・三角パス ・ゴール下シュート・ドリブルシュートの練習をする。 4．前時の授業の反省を基にした、チームの目標・練習内容（課題解決方法）をチームごとに確認する。	・ロープ、デジタイマー、ビブス、 ・チームごと６列縦隊 ・三角コーン、デジタイマー ・学習シート
展開	課題追究 課題解決	28分	5．チームごとに練習する。 ・相手をかわす練習 ・チームの特性を生かす練習 6．ゲームを行う。 ・各学級３チームによる勝ち残りゲーム。（１ゲーム２分３０秒）	5．［運動についての思考・判断］ 自己の課題解決を目指し、工夫をしながら練習している。 ＜観察・巡回指導＞ A:・自己課題の十分な理解 ・意欲的な取り組み ・友人へのアドバイス C:・教師による課題理解に向けての助言 ・助言を得ての取り組み 6．［運動の技能］ チーム・自己の練習を生かしゲームをしている。 ＜観察・巡回指導＞ A:・意欲的な自己課題解決への取り組み ・技能の高まり ・友人へのアドバイス C:・アドバイスによる気づき	5．マンツーマンディフェンスでは１対１で相手をかわすことの重要性を再認識させ練習させる。 ＜A・C・D・F＞ ・相手をかわすポイント 方向を変える スピードの緩急 動作で騙す 等の視点が不足しているチームには、巡回しながら助言・指導していく。 ＜C・E＞ ・チームの特性を生かす練習については、今後の方向性を確認しながら助言・指導していく。 6．マンツーマンディフェンスで守ること、１対１で相手をかわすことを意識させる。 ＜A・C・D＞ ・他チームのゲームから学ぶことを助言する。	・ホワイトボード ・得点版
終末	まとめ	7分	7．集合・整列し教師の指示で整理運動をする。 8．チームごとに集合しの本時の学習を振り返り成果と課題について話し合う。 9．チームのキャプテンが発表する。 10．挨拶をする。		7．体全体を簡単にほぐす。 8．チームごとにミーティングを行い、本時の目標・練習内容が有効であったか話し合う。 9．他のチームの発表から学ぶことを意識させる。	・学習シート ・チームごと６列縦隊